

「ほめる」とは、

経営指針シリーズ⑥ 行動規範

相手の価値を発見して、伝えることで
相手とその周りを幸せにすること。

「ほめる」定義はいろいろありますが、私が考える「ほめる」とは、上記のことです。決して「おべっか」ではなく、また相手を自分の都合良くコントロール（何かをしてもらいたいため）するものではありません。



相手とは、人だけではありません。モノや出来事も含みます。大分教育事務所は他の事務所より狭く所長室もありません。だからこそ、職員の距離が近い情報共有がしやすく、誰かの困りに敏感となり助け合うことができます。私も皆さんの会話を聞くことができるので、連絡や相談事もわかりやすいです。

人もモノも辛かった出来事も、見方を変えれば良いことと思えます。コップの中のジュース（お酒）の量（事実）は変わりませんが、「もう半分」と見るのか「まだ半分」と感じるのは自分です。



「ほめる」ことを意識して生きていくと、人との出会い、自分の持っているモノ、経験した出来事もプラスに考えることができ、人生をより楽しめるようになります。

価値を発見するためには、相手をしっかり見る必要があります（美点凝視）。「信号機の赤は右？左？」と、毎日見ているものでも意識しないとわからないこともありますね。「うちの子どもは良い所がない」「あの人は困った人だ」というのは、自分の修行が足りないと思っています。

伝えるためには、具体的な事実（事象）を伝える必要があります。私は以下の3点を意識します。

ほめ方 = 事実 + 感謝 + 価値を伝える
例：「きちんと戸を閉めてくれたね（事実）。ありがとう（感謝）。あなたは几帳面だね（価値）」

いきなり3つは言えなくても、「朝早いね」「以前より丁寧になったね」という具体的な事実をだけでも、相手はうれしいものです。また、褒め言葉トランプにあるような「すてき」「輝いている」「ホっとする」等のほめ言葉を多く知っていると感謝の気持ちや相手の価値を伝えやすくなります。

幸せ 上記の伝え方だけでなく、ネットで「ほめ方」を検索すると多くの方法がでてきます。

しかし、どんなに良いほめ方をしても、相手がそう思わなければ意味はありません。だから、テクニックより相手の成長を願うような相手を思う気持ちが一番です。さらに、「あの人にほめられたい」と思われるように自分自身を磨く必要がありますね。私もまだまだできていません。日々意識して頑張ります。